

調査結果のまとめ

(H17.11月 実施)

スクールカウンセラー配置事業実施状況調査（配置中学校用）

I スクールカウンセラーの勤務状況等について

1 SCの勤務時間について

- (1) ほぼ規則的に勤務している。
 (2) やや変則的で曜日や時間の変更がいくらかある。
 (3) 変則的で、曜日や時間の変更が多い。

| | |
|------|-----|
| 264校 | 97% |
| 8校 | 3% |
| 0校 | 0% |

2 SCの在校（在室）の曜日や時間について、児童生徒や教職員が知っていますか。

- (1) ほぼ全員が知っている。
 (2) 知っている者の方が多い。
 (3) 半数ぐらいの者が知っている。
 (4) 知らない者の方が多い。
 (5) ほぼ全員が知らない。

| | |
|------|-----|
| 232校 | 85% |
| 33校 | 12% |
| 7校 | 3% |
| 0校 | 0% |
| 0校 | 0% |

3 現行のSCの週8時間の勤務時間は、貴校にとって多いですか。

- (1) 週8時間は多すぎる。
 (2) 週8時間は適当である。
 (3) 週8時間は少なすぎる。

| | |
|------|-----|
| 5校 | 2% |
| 135校 | 50% |
| 132校 | 48% |

4 SCの配置については拠点校方式をとっていますが、貴中学校区内の小学校のSCの活用の状況についてお答えください。

- (1) 校区内の小学校からのSCへの相談等が多数ある。
 (2) 校区内の小学校からのSCへの相談等がある程度ある。
 (3) 校区内の小学校からのSCへの相談等はほとんどない。

| | |
|------|-----|
| 46校 | 17% |
| 147校 | 54% |
| 79校 | 29% |

※ 校区内の小学校に対するSCの活用を図るために工夫している点があれば記述願います。また、課題や問題点があれば記述願います。

別紙に取りまとめ

II 相談室等の状況について

1 貴校では、SCの相談ための相談室は整備されていますか。

- (1) 十分に整備されている。
 (2) ほぼ整備されている。
 (3) 整備が十分ではない。
 (4) 相談室は設置されていない。

| | |
|------|-----|
| 92校 | 34% |
| 152校 | 56% |
| 27校 | 10% |
| 1校 | 0% |

2 相談室に電話は、設置されていますか。

- (1) 設置されている。
 (2) 設置されていない。

| | |
|------|-----|
| 83校 | 31% |
| 189校 | 69% |

3 貴校の相談室の整備の状況について、SCはどの程度満足していますか。

- (1) 十分に満足していると思う。
 (2) ほぼ満足していると思う。
 (3) やや不満があると思う。
 (4) かなり不満があると思う。

| | |
|------|-----|
| 27校 | 10% |
| 166校 | 61% |
| 69校 | 25% |
| 10校 | 4% |

※ 相談室の整備等に関する課題や問題点があれば記述願います。

別紙に取りまとめ

4 SC用の席は職員室にも設置されていますか。

- (1) 設置している。
(2) 設置していない

| | |
|------|-----|
| 255校 | 94% |
| 17校 | 6% |

Ⅲ SCとの連携について

1 SCと教員等との連携・連絡は綿密に行われていますか。

- (1) 常に連携・連絡がうまく保たれている。
(2) 連携・連絡は、必要に応じてとれている。
(3) どちらかと言うと、連携・連絡は十分とは言えない。
(4) 連携・連絡が十分でない。

| | |
|------|-----|
| 121校 | 44% |
| 144校 | 53% |
| 7校 | 3% |
| 0校 | 0% |

2 学校と関係機関（医療機関・子どもセンター・適応教室等）の連携状況について。

- (1) SCの配置によって、連携・連絡がうまくとれるようになった。
(2) SCの配置によって、連携・連絡が必要に応じてとれるようになった。
(3) 連携・連絡について、特に変化はない。
(4) 連携・連絡はあまりうまくとれていない。

| | |
|------|-----|
| 29校 | 10% |
| 141校 | 52% |
| 100校 | 37% |
| 2校 | 1% |

3 SCから学校側へ相談活動等について積極的な助言や提言はされていますか。

- (1) 積極的な助言・提言がなされている。
(2) やや積極的な助言・提言が不足している。
(3) 積極的な助言・提言はない。

| | |
|------|-----|
| 198校 | 73% |
| 62校 | 23% |
| 12校 | 4% |

4 SCは、貴校の教師集団に十分に溶け込んでいますか。

- (1) 非常にうまく溶け込んでいると思う。
(2) うまく溶け込んでいると思う。
(3) あまりうまく溶け込んでいない。

| | |
|------|-----|
| 101校 | 37% |
| 156校 | 57% |
| 15校 | 6% |

※ SCとの連携についての課題や問題点について記述願います。

別紙に取りまとめ

※ SCとの連携の成果について、具体的な事例を記述願います。

別紙に取りまとめ

Ⅳ SCの活用方法について

1 SCを講師としたカンパリング等に関する校内教職員研修会を実施していますか。

- (1) 実施した、もしくは計画している。
(2) 実施していない。

| | |
|------|-----|
| 246校 | 90% |
| 26校 | 10% |

2 SCを講師として児童生徒に関する事例研究会等を実施していますか。

- (1) 実施した、もしくは計画している。
(2) 実施していない。

| | |
|------|-----|
| 144校 | 53% |
| 128校 | 47% |

3 気になる児童生徒について、担任教員等がSCと相談する体制（コンサルテーション）をとっていますか。

- (1) 気になる児童生徒について担任教員等が相談に行くような体制を

| | |
|------|-----|
| 219校 | 81% |
|------|-----|

- とっている。
 (2) 担任教員等の自主性等に任せている。
 (3) 特に、相談に行く体制はとっていない。

| | |
|-----|-----|
| 53校 | 19% |
| 0校 | 0% |

4 SCを活用して保護者を対象とした講演会等を実施していますか。(計画済みも含む)

- (1) 実施した、もしくは計画している。
 (2) 実施していない。

| | |
|------|-----|
| 60校 | 22% |
| 212校 | 78% |

5 SCを活用して生徒等を対象とした講演会等を実施していますか。(計画済みも含む)

- (1) 実施した、もしくは計画している。
 (2) 実施していない。

| | |
|------|-----|
| 21校 | 8% |
| 251校 | 92% |

6 貴校では、特別活動や学級会活動、道徳等でカウンセリング技法を応用した体験的授業(人間関係訓練、ストレス対処法、自己理解等)をSCの助言等に基づき実施していますか。

- (1) 実施した、もしくは計画している。
 (2) 実施していない。

| | |
|------|-----|
| 57校 | 21% |
| 215校 | 79% |

V SCの配置について

1 貴校では、SCの配置を次年度も希望しますか。

- (1) 強く希望する。
 (2) どちらかといえば希望する。
 (3) どちらかといえば希望しない。
 (4) 希望しない。

| | |
|------|-----|
| 265校 | 98% |
| 6校 | 2% |
| 1校 | 0% |
| 0校 | 0% |

2 今後のSC配置について、意見や要望等があれば記載願います。

別紙に取りまとめ

VI スクールカウンセラーに期待する活動内容についてお書きください。

別紙に取りまとめ

スクールカウンセラー配置事業に関する調査(自由記述)

(自由記述については代表的なものを抜粋している)

I-4 校区内の小学校に対するSCの活用を図るために工夫している点。

- ・学期ごとにSCの来校予定日とカウンセラーだよりを小学校に配布している。
- ・校区内の小学校と説明会やクラブ紹介など連携を強化している。
- ・毎月SC作成の通信を小学校に送付し、翌月の勤務日、カウンセリングの予約の取り方等を連絡している。
- ・年度当初に学校だよりやSCの自己紹介プリントを利用し周知をはかっている。
- ・校区内の小学校でSCが講演会の講師をし、その際活用について呼びかけを行っている。
- ・小学校からの相談については、SCが小学校に向いて教員や保護者に対応するようにしている。この方が小学校や保護者にとっては相談しやすい。
- ・生徒指導連絡協議会の際、小学校の担当教員にたびたび声をかけている。
- ・育成市民会議等でもSCの来校について伝えている
- ・拠点校としての役割を果たすように、管理職が連絡を取り合っている。
- ・校区内各小学校で教職員研修を実施した。
- ・月に1回小学校に半日勤務し、小学校でのSCの活用を図っている。
- ・年度当初にSCが小学校を訪問し、勤務日、時間、予約方法等について確認し、小学校が保護者に周知している。
- ・小中合同でSCを講師として職員研修会を実施した。
- ・養護教諭を通してのアプローチ、校区対策会議や不登校親の会への参加呼びかけ等をしている。
- ・4週間に1回、小学校に勤務している。
- ・校区内の小学校に「相談室だより」「親の会案内」を送付している。
- ・小中学生全員にカウンセラーだよりを配布している。
- ・各小学校より保護者に対して周知徹底を図っている。
- ・中学校では不登校担当教員、小学校では生徒指導担当教員が窓口となっている。
- ・月に1度、小中連絡会を行っている。
- ・中学校区の不登校対策会議で案内している。
- ・勤務日以外にも連絡がとれるようにしている。
- ・自治会を通じて全家庭に教育相談案内チラシを配布した。
- ・管理職間でSCの相談状況について情報交換している。
- ・毎週小学校と連絡を取り、日程調整を行い有効活用を図っている。
- ・町校長会、教頭会で説明し、活用の促進を図る。
- ・町適応教室指導員を通して、不登校児童とその保護者との相談の機会を設けている。
- ・町のケーブルテレビに文字放送として常時流している。
- ・職員室にカウンセリングスケジュール表を設置し、小学校からの希望も記入しており、小中関係なしに確実に予約することができるようになっている。
- ・町の広報誌を通して全町の保護者に案内している。

- ・小学校との話し合いで、小学校の相談日と時間を決め保護者や児童に連絡している。
- ・長期休業前にお知らせを配り、カウンセリングの希望をとったり、保健だよりやその他のたよりに情報を記載している。
- ・年度当初に中学校内の学校等が集まる会で、パンフレットを含めて説明し、活用を呼びかけている。
- ・S C着任時に各小学校へ挨拶回りを校長と共にいき、相談を受けやすい態勢をとっている。
- ・不登校問題等、日頃から小中学校の連携を重視しており、S Cの在校日や相談受付についても連絡をとりあっている。
- ・職員の中にS C担当者を配置し、小学校との連絡窓口としている。
- ・校区内の各小学校（3校）に学期に1～2回出かけて、相談にあたっている。
- ・S Cの専用電話を設置し、S Cが日程を調整している。
- ・校区内の小中学校生徒指導委員会等で情報交換している。

課題・問題点

- ・中学校のカウンセリングが多く、小学校に対応する余裕がない。
- ・中学校での相談件数も減らない状況にあり、小学校にもS C配置を希望する。
- ・小学校からの相談が多く、本校生の相談時間が減り困ったことがある。
- ・校区内小学校の教師、保護者に対する広報、啓発活動が不十分である。
- ・校区内に3つの小学校がある。しかし週1日の勤務では中学校の相談活動だけでいっばいになる。
- ・月2回午後小学校に行ってもらっているが、その日のケースカンファレンスの時間が不足し、S Cに大きな負担をかけている。
- ・S C配置が認知されるにつれ相談希望が増え、調整が難しい。
- ・中学校に勤務しているので、小学校の保護者等からの相談はかけにくいように思われる。
- ・小中両校でカウンセリングを行う場合、1件あたりの時間が短くなる。
- ・週1回の勤務日は本校の相談活動にかかりきりの状態で、小学校からの相談に対応できるか疑問である。
- ・新任S Cのため児童生徒への関わりが薄く、小学校への積極的な啓発活動が望まれる。
- ・成長過程を知り、現に問題を抱えている生徒の指導に役立てるための小中連携をふまえ、小学校に出かけて、年度当初に協議を持つようにしたい。
- ・不登校の傾向は小学校時にあり、深刻化する前の対応が大切なので小学校の教職員の研修を企画したい。
- ・S C自身が各校を定期的に訪問する等の体制作りをする必要がある。
- ・去年は希望はたくさんあったが、今年はS Cが変わり少なくなった。

- ・畳やカーペットを入れてリラックスできる空間が必要である。
- ・ドアを閉めて相談する必要上、夏にはクーラーが必要である。
- ・職員室から離れた別棟にあり、校内電話の設置を希望されている。
- ・相談者の待合室は設置できず、空き部屋を複数使う状況である。
- ・放送室の奥に設置しているので生徒が入室しにくい状況である。
- ・和室なので相談しにくいとＳＣから言われている。
- ・相談室への出入りが他の生徒に見え、相談したくても申し出にくい状況があるため、放課後、下校時間を過ぎてから活動せざるを得ない場合がある。
- ・相談室と別室指導の部屋が共用なので不便を感じている。
- ・相談室は教室に入れない生徒の学習室となっており、相談日などの日が別室生徒の学習の場がない。
- ・調理準備室を転用しており、実習時に騒がしかったり出入りの秘密性が保ちにくい。
- ・応接室と兼用のため、室内環境をカウンセリングに適した状況に整備できない。
- ・ＳＣによってはその部屋が何をしてもよい部屋になってしまい、子どもが自由に過ごす遊び場になってしまわないかと危惧している。
- ・文具等の消耗品の置き場であり、相談活動中に不意の入室や校内放送が入るなど相談室の環境が整っていない。
- ・民家が極端に隣接しており、夏場も窓を開けることができない。
- ・電話相談もできるように、外線電話、留守番電話の設置を要望されている。
- ・相談室の環境整備についてＳＣと十分意見交換をする時間がない。
- ・個人情報保護のため、鍵のかかる保管場所の設置を要望されている。

Ⅲ-4 SCとの連携についての課題や問題点

- ・事例研究等の研修会の機会を増やす必要があるが、勤務日の関係で難しい。
- ・週1回なので、相談したい時にいないということがよくある。
- ・週1日の勤務のため、担任等との情報交換する時間の確保が難しい。
- ・勤務時間の延長が必要である。
- ・常勤にして欲しい。
- ・週1回8時間の勤務で、課題が表面化した際、タイムリーに対応することができない。
- ・遠方からの来校で時間的制約や連絡・対応の面で課題が残る。
- ・学校現場が日々多忙で、教職員とSCとの打ち合わせや協議する時間が持てない。
- ・週1回の勤務なので、生徒の指導に間隔があきすぎて効果が上がらないことがある。
- ・同じ曜日に実施している為、担任との面談をとる際、時間割の関係で時間設定が難しい。
- ・曜日の固定により祝日などで2週間あくことがある。
- ・SC、教職員ともに空き時間がとれず、連絡打ち合わせは放課後から始まる。
- ・相談件数が多くなり学校との情報交換は次週になってしまうことがある。
- ・需要の割に出勤日数が少ない。
- ・SCへの相談内容を全教師に共通理解していくことが難しい。
- ・個々の教職員の裁量に委ねられているところがあり、残念ながらうまく連携されていない場合もある。
- ・SCとの連携について教職員への啓発、研修がより一層必要である。
- ・SCと教職員が連携するための窓口が必要である。
- ・対策部会の中では助言や提言もあり、その内容を教職員に全体に伝えるための工夫が必要である。
- ・席を生徒指導担当教員の横にして連携を図れるようにしているが、週1日では十分な活動が行えない。
- ・生徒の指導についてSCと学校の方針に違いが生じた場合、調整が難しいケースがある。
- ・職員研修の回数を増やすこと。
- ・SC自身も職員室にいる時は職員と積極的にコミュニケーションをとらないと連携は難しいと感じる。
- ・窓口の教員だけでなく担任の先生もSCを積極的に利用して欲しい。
- ・大きな問題が生じたときの連携は意識的にできているが、日常的な相談内容等の必要な情報交換にやや欠けている。
- ・職員側のSCに対する意識に差がある。
- ・生徒、保護者の状態から初期対応としてのSCとの連携が望まれるが、勤務日の関係からタイミングが遅れる場合がある。
- ・SCとの連携の窓口が教頭、不登校担、心のケア担、生徒指導と複数あり、それぞれ問題が異なっているので一本化しがたい面がある。
- ・5年間は継続して同じSCを配置して欲しい。
- ・学校として組織的にSCと連携できる体制を確立していく必要がある。
- ・カウンセリングの前に生徒の学校での様子（状況等）を正確に伝えておいた方が望ましい。保護者からの情報のみの場合、適確に伝わらないことがあり、SCのアドバイスが学校の方針とずれることがある。

- ・生徒や保護者・教師が参考にしたり納得できるものがないせいなのか、継続して相談することが殆どなく、連携しにくい。
- ・教職員の提言でSCが対応している現状があり、SC本人が積極的になって欲しい。
- ・SCに相談しても的確な指示が得られない。
- ・SCは専門性を持っているが多種多様な家庭環境が原因で問題行動を起こす生徒が多いので、幅広い助言や支援ができる人生経験豊かなSCが望ましい。
- ・SCの配置が本年度からであり、しかも9月にSCが交代した為校区への啓発も含め十分な活動に至っていない。
- ・SCの性格にもよると思うが、積極的に職員との交流がないように思う。
- ・SCとしての経験の差によると思われるが、教員との綿密な連携が進まず、うまくとけ込んでいるとは言えない。
- ・初年度であるため、まだ学校の体制について熟知されていない部分があり、今後より一層積極的な助言・提言がなされることを期待している。
- ・全体への予防策も含めた専門的な指導、助言を期待している。
- ・SCの大学での仕事が大変忙しいと思われ、規則正しい勤務時間が確保しにくい。
- ・非行傾向にある男子不登校生徒にも関わられるSCが望まれる。
- ・生徒指導上の生徒への対応を活動の中心にすることを求められており、相談内容の制限が多く困っている。
- ・「教育は人なり」という言葉があるが、教師もカウンセラーもまさにその通りである。
- ・今年度新たに着任したSCなので生徒や職員の状況を掴むのに時間を要したが、教職員から積極的に相談することで助言等が得られるようになった。
- ・勤務時間の変更が多いため、生徒へのキャンセル等不都合を生じている。そのため、継続したカウンセリングの希望が少ない。
- ・最初は、本校の実態・実情に応じた相談活動ではなく、SCが興味のあることを中心に対応していたが、今は改善された。
- ・SCが生徒、保護者等のプライバシーを重視されているので、理解しにくい場面もある。
- ・SCは相談内容に関して秘密を遵守される。その為、SCとの相談による保護者の行動が担任に伝わるが遅れる時がある。

Ⅲ-4-2 SCとの連携の成果について、具体的な事例記述

(1) 児童生徒・保護者へのカウンセリング

- ・虐待の疑いのある生徒、家庭の状況が生徒にとって好ましくない場合等アドバイスを受けて関係機関等との連携がうまくいった。
- ・生徒を直接カウンセリングすることによって、高機能自閉症の疑いを指摘していただき、教師の対応を考える上で大いに役立った。
- ・不登校生への対応において効果がある。
- ・欠席が目立ち、不登校になるのではと心配される生徒や保護者とのカウンセリングが速やかに行われている。
- ・母親が不安になって相談に来たケースで、ＳＣの定期的な面接により、関係機関とのつながりができた。
- ・生徒の母親へのカウンセリングを通して、生徒の様子も良い方に変化してきた。
- ・教室に入りにくくなっていた生徒が、ＳＣが相談することで教室に行くことができるようになった。
- ・ＳＣとの話し合いの中で虐待の事実がわかり早期に対応ができた。
- ・家庭内暴力の生徒に対し関係機関と連携が速やかにできた。
- ・カウンセリングを早い時期に受けることで不登校にならなかった生徒もいる。
- ・別室登校している生徒に積極的に関わってもらい、生徒の顔が明るくなってきた。
- ・学校を良く思っていない保護者がＳＣと話しをすることが増えたため、学校への理解が深まって、いい方向に進んでいる。
- ・家庭状況が不安定な不登校生徒に関わり、市福祉部局や適応教室等と学校が円滑に連携して取り組むことができた。
- ・１年生の長欠生が例年より大幅に減少している。
- ・男性の職員では話せない内容や家庭の問題、性の問題などについて相談があり、早期に対処できた。
- ・学校、教師とＳＣがコンサルテーションをすることにより、生徒が医療機関にスムーズに受診できるようになった。
- ・不登校生の情報交換と支援の方法についての的確な指示を受け、大いに助かった。
- ・軽度発達障害を持つ生徒への対応の仕方についての助言があり、指導に役立てることができた。
- ・ＳＣが生徒、保護者と生徒が通院している病院に関わり、担任や不登校担当が病院の先生と連携がとれるようになった。
- ・ＳＣが相談を受けた内容のうち、学校に伝えておいた方がよいと思われることは積極的に伝えてくれるため、学校側もそれを配慮して接することができた。
- ・別室登校している生徒へのカウンセリングを続け、遅刻はするがほぼ全授業に参加できるようになった。
- ・生徒の不登校状況等に応じた細やかな関わりを行い、生徒が明るい表情になった。
- ・担任にも面会できなかつた生徒がＳＣのカウンセリングを受けることができるようになった。
- ・特に不登校傾向の見られる生徒への対応に有効である。
- ・小学校から引き続きカウンセリングを受けている生徒、保護者が多く、中には別室登校できるようになった生徒がいる。

- ・ストレスの状況や本人と友達関係について担任には分からない所をよく掴んでいる。
- ・生徒の分析について専門的見地より判断され有意である。
- ・的確な助言をもとに、虐待を受けていた生徒を関係機関と連携し支援態勢を確立した。
- ・生徒の実態のとらえ方が、教師とＳＣとは異なり生徒の多面的なとらえ方につながっている。
- ・ＳＣのカウンセリングを受けることが、友人関係を上手く築けない生徒の心のケアになっており、不登校や問題行動の抑止につながっている。

(2) 教職員への助言・アドバイス及び連携

- ・メールを活用して連携を図ることもある。
- ・教職員とは異なる立場からのカウンセリングから問題点が明らかになり担任の指導がしやすくなった。
- ・定例生徒指導委員会に参加してもらい、普段は見過ごしがちな生徒の情報を得ることができる。
- ・校内教育相談部会にＳＣも入っていただき、情報交換を密にしている。
- ・ＳＣの出勤日に生徒指導委員会を毎週開催し、情報交換を密にしている。
- ・不登校生の担任及び不登校担当教諭への助言は、日常の不登校生への指導に役立っている。
- ・各学年の学年会にＳＣにも出席してもらい、生徒の情報を得ることができた。
- ・ＳＣの専門的な立場でのアドバイス等が教育相談や学級経営に生きてきている。
- ・今まで担任１人で抱えていた問題をＳＣと共有し、随分前に進んだように思う。
- ・相談内容により必要な課題について担任その他の職員に対して的確に示唆されるため、職員はそれを参考に指導に当たることができる。
- ・教師の思い、指導への希望がＳＣにより保護者に理解され、取組が進んだことがある。
- ・チーム会議における指導助言により具体的な指導の方向が示された。
- ・校内事故時の緊急対応において教職員に「生徒への対応についての研修」を実施し、生徒に対してストレスチェックの実施等、早期に対応できた。

(3) 生徒・保護者を対象とした講演等

- ・ＳＣの大学の研究室と連携し、不登校を未然に防止することを目的とした道德教育（心の教育）を年数回実施した。
- ・最近、特に発達障害について保護者からの相談が多くなり、専門的なアドバイスが得られる。
- ・不登校の親の会が設立され、学校側と保護者との意思疎通が深まってきた。
- ・ＳＣと相談することによって保護者の心が安定し、学校に対する信頼の確保につながった。
- ・保護者会を開くなど、親との話し合いの場が持てるようになった。

(4) カウンセリング等に関する校内研修や児童生徒に関する事例研究

- ・毎年、校内研修で講師となり校内の具体的な事例についてアドバイス等を受け、教師の意欲と指導技術の向上に大きく貢献している。

- ・職員研修などで本校の実態をふまえた専門的助言を得ることができた。
- ・事例研究のなかで、極めて具体的なアドバイスが得られる。

(5) 家庭訪問や関係期間との連携

- ・SCが家庭訪問に加わり、会話がはずむようになった。
- ・学校に足が向かない生徒に少しずつ登校しようという気持ちが出てきた。
- ・SCの見立てにより、方向性を持って対応することが可能になり、外部機関との連携も容易になった。

V-2 今後のSC配置についての意見や要望の記載

- ・毎日学校に勤務できるように予算措置をして欲しい。

- ・ S Cが他の勤務との掛け持ちのため、日程的に融通が利かない点が困る。
- ・カウンセリングを希望する保護者、生徒が徐々に増えている。カウンセラーの勤務日（時間）を増やすべきである。
- ・週2日8時間の勤務を要望する。
- ・週1回の相談でなく、曜日を変え週2回以上にして欲しい。
- ・1日8時間より4時間を2回実施してくれる方が利用しやすい。
- ・継続した相談活動、指導のためS C配置の年数期限をつくらず、出来るだけ同じS C配置を希望する。
- ・5年間は継続して頂きたい。3年ではS Cと教員が慣れた頃に配置替えになる。
- ・現在配置されているS Cは学校の状況をしっかり把握しており、教員から信頼されている。次年度継続して配置してもらいたい。
- ・S Cとして資質に加え、熱意のある人材の配置を要望する。
- ・教職経験があるS Cで大変助かっている。
- ・積極的に現場に飛び込む意欲を持った方に来ていただきたい。
- ・不登校問題に取り組んでいる本校にとって、臨床例の多い経験豊かなS Cの配置を望む。
- ・今年は新任S Cということで、本人自身学校現場に戸惑いがあり、多少遠慮している様子が見られた。
- ・S Cからの教職員への積極的な関わりを強く望む。
- ・S Cの専門性は大事だが、学校によって実情が違うのでサポートの在り方も様々であるはずである。S Cの専門性を生かして個々の学校の教育活動をサポートするにはどんな活動をすればいいかを考えた活動を期待している。
- ・相談事案のおおよその内容は、各校のS C担当者に連絡するべきである。保護者からの問い合わせがあったときに、学校が何も知らないとの確な対応ができない。
- ・1小学校1中学校という面から、小学校時代から現在のS Cと信頼関係が構築されている生徒、保護者が多い。小学校への配置ができるなら、小中同じS Cを配置して欲しい。
- ・S Cに相談できることで、心の安定が保たれている生徒は勿論、保護者がいるのでさらに、配置の拡充を要望する。
- ・友人関係やその他の課題を自分では解決できない生徒が増えており、未然防止の第一歩となるためにもS Cの常勤を希望する。
- ・新たに着任する場合、生徒や教職員と新規に関係を構成して行かねばならない。同一校に長くいる方が活動しやすい事がある。
- ・学校としても受け入れ体制を確立し、S Cの効果的な活用を図っていく。
- ・これからは保護者、児童生徒への講演会も必要と考えている。
- ・生徒の心のケアのみならず、年々「子育て」に関する親の悩みが増加している。

VI スクールカウンセラーに期待する活動内容

(1) 児童生徒・保護者へのカウンセリング

- ・非行傾向のある問題生徒への積極的な取組の充実を図ること。
- ・生徒や保護者が問題解決に向かえるようサポートし、学校の実情にあった活動を展開すること。
- ・別室登校生やひきこもり生徒への関わり。
- ・不登校生徒宅への家庭訪問。
- ・心理テストや発達検査など教師ではできない専門的な知識を活用して、生徒や親にアドバイスすること。
- ・LD、ADHDなどの疑いのある児童生徒とその保護者への対応。
- ・ストレス対処法等の体験的授業へのアドバイス。
- ・授業の見学により問題を抱えている生徒の教室での様子を把握すること。
- ・子どものサインを早期に読み取る手助け。
- ・不登校生はもちろんのこと、生徒指導上の問題を抱える生徒へのカウンセリング。
- ・思春期のこどもの対応に悩む保護者への助言。
- ・SCの授業参観による生徒理解の推進。
- ・登校している生徒の心の健康を保持する予防的な活動。
- ・不登校生徒やその傾向にある生徒理解とその対応への助言。
- ・問題を抱えた生徒に対して、家庭訪問をするなどの積極的な関わり。

(2) 教員への助言・アドバイス及び連携

- ・面談にくる生徒の心理的状況を可能な範囲で担任等に伝え、必要に応じて助言する。
- ・教師からの相談を聞くだけでなく、具体的な取組を示すこと。
- ・悩みを抱えている生徒、保護者と教師との橋渡しの活動。
- ・教師と相談する時間をもつこと。
- ・校内指導体制における教職員との効果的な連携。
- ・カウンセリング技法を応用した体験的授業への助言。
- ・個々の気になる生徒に対しての対応を教職員と共に考えること。
- ・カウンセリング技法の研修を年間計画に入れること。
- ・学校の教職員とは視点の違う支援や助言。
- ・精神的なストレスを抱える教職員へのカウンセリング。
- ・人間関係の構築、ストレスへの対処法等を中心として授業へのアドバイス。
- ・不登校生徒への対応について、中学3年間で教師ができる内容を具体的に示すこと。
- ・当該生徒の在籍する教師への積極的な働きかけ。
- ・ストレス調査の結果から傾向と分析をまとめ、全職員に対して共通理解を図ること。
- ・職員研修や生徒指導委員会等への参加と助言。
- ・教師に話しにくい事柄を生徒からしっかり聞き、教師を側面からサポートすること。
- ・個々の生徒について専門機関への相談の必要性についてのアドバイス。

(3) 生徒・保護者を対象とした講演

- ・生徒や保護者向けの講演会を実施すること。
- ・生徒を対象としたリラクゼーション等の講習会の実施。

- ・生徒たちへの心のメッセージとなるような話をする機会や場の企画。
- ・年一回は全校生、教職員、保護者向けへの研修会や講演会を実施すること。

(4) カウンセリング等に関する校内研修や児童生徒に関する事例研究

- ・教職員に対する事例研究会の実施。
- ・教師のスキルアップ研修の実施。
- ・カウンセリング・マインドに関する資料の提供
- ・学活や道徳の時間で使える技法の紹介。
- ・PTA教育講演会の講師。

(5) 家庭訪問や関係機関との連携

- ・適切な専門機関へのつなぎ。
- ・医療や専門機関の情報と連携するときのアドバイス。
- ・関係機関への連絡や働きがけで、学校の対応として抜けていることの補足。
- ・専門家として医療機関を積極的に紹介すること。
- ・担任や生徒指導担当教員との家庭訪問など出前相談。

(6) その他

- ・学校職員の一員としての自覚とそれによる組織的対応能力の向上。
- ・教師、保護者に対する広報、啓発活動。
- ・臨機応変に対応すること。
- ・常に安心して信頼して相談できる存在であること。
- ・堅くプライバシーが守られる外部の良き相談相手。
- ・地域住民に対してカウンセラー理解を深めるための研修会。
- ・校区の小学校に、もっと積極的にPRを行うこと。
- ・本校では心の支えとしてSCを必要としている。
- ・学校の立場に立って相談活動をすることを強く望む。
- ・継続的なカウンセリングは必要だが、長期に渡ると新規の児童生徒が入る余地がないので工夫して欲しい。
- ・明確な現状把握とそれに基づく目標設定等展望を持てる具体的示唆。
- ・主体的に課題をみつけ、生徒の中へどんどん入るようにして欲しい。